

## 読み書きに障害のある児童・生徒への配慮

児童・生徒一人一人の困難な状況の把握に基づき、適切な指導と支援を行うことが必要です。

- ◆ 自己肯定感を高める指導を行う  
毎日繰り返して練習しているにもかかわらず、習得することが難しい場合、児童・生徒は自信を無くし、学習する意欲を失ってしまう場合があります。  
できる課題から少しずつ成功体験を積み上げていくとともに、自分の成長が、自分で分かり、次の学習への意欲につなげられるような配慮が大切です。
- ◆ 興味・関心を持続できる学習を行う  
単調な反復の学習だけでは、学習自体への意欲を損なってしまう場合があります。  
児童・生徒が興味・関心をもって取り組める題材やゲーム的な要素を取り入れることで、興味・関心を持続させ学習が定着できるように配慮することが大切です。
- ◆ 言葉による指示や説明に加えて視覚的な提示も行う  
言葉による説明だけ又は板書や教科書等だけの説明では、内容の理解が難しい場合があります。言葉による説明と視覚的な提示を併用して行う配慮が有効です。
- ◆ 学習を日常の場面と結び付ける  
読み書きに障害があることから、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じる場合があります。学習を日常の場面に結び付けて指導することが有効です。また日常的に用いる語彙の拡大を図っていくという観点が必要です。
- ◆ 教材・教具を工夫する  
児童・生徒の障害特性や実態によって、教材・教具に配慮が必要です。文章を読みやすくするために字を大きくする、行間を空け、振り仮名を付ける。コンピュータの読み上げソフトや学習ソフトを活用する。握りやすく、濃い鉛筆やマス目の大きいノートを使用するなどの配慮が有効です。  
類似した情報が混在していると、必要な情報を選択することが難しくなる場合があります。不必要な情報は、提示しないようにし、必要な情報だけが届くようにすることが大切です。

児童・生徒の障害の状態を理解して、指導と支援の充実を進めていきましょう。

編集・発行

東京都教育庁指導部特別支援教育指導課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-6847

東京都教育委員会印刷物登録 平成27年度 第228号



# 「すらすら読むことが難しい」 「漢字を書くことが難しい」 「長い文章の読解が難しい」

このような児童・生徒の状態は  
読み・書きの障害によることが考えられます。



読み書きに障害のある児童・生徒は、一人一人の状態に応じた適切な指導と支援を求めています。

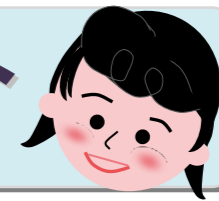
平成28年3月  
東京都教育委員会





# 個に応じた「読み書き」の指導のポイント

—ポイントを押さえて、児童・生徒が「分かる」授業を展開しましょう—



## すらすら読むことに困難さがある

- 文を正確に素早く読むことが難しい。

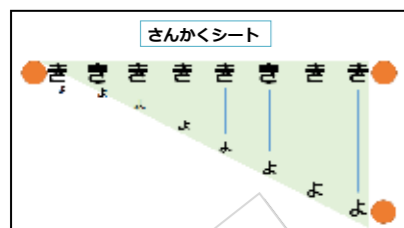
### 障害の状態

- ◆ 文字を音声等に変換することが難しく、「にんぎょ」「にんぎょう」「ねこ」「ねっこ」等、よう音や促音など特殊音節を読み間違える。
- ◆ 単語をまとまりとして捉えて読むことが難しく、逐字読みになる。

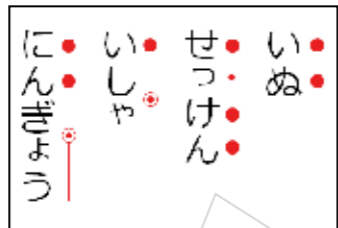


### 指導のヒント

- ◎ 特殊音節のルールを「さんかくシート」や「記号」を活用して視覚的に捉えられるようにします。



速く言うと「きよ」ゆっくりだと「き」「よ」になることを視覚的に示します。



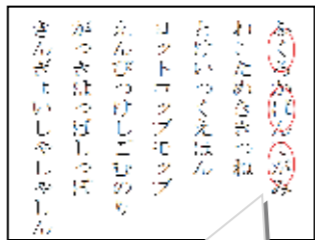
特殊音節を読む際、動作を付けて音の特徴を体感できるようにして学習します。

- ◎ 文字を拡大し、行間を空け、分かち書きにした教材を活用して学習します。

文の中から言葉のまとまりを見付ける練習をします。



文字を拡大したり、行間を空け分かち書きにしたりして学習をします。



言葉のまとまりを見付ける学習をします。



## 漢字を書くことに困難さがある

- 漢字の形を捉えて正確に書くことが難しい。

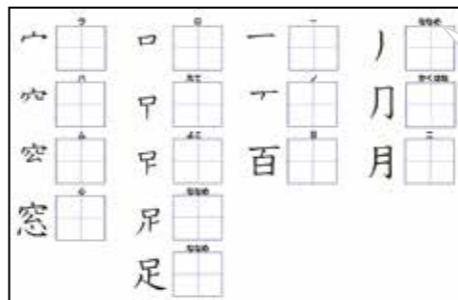
### 障害の状態

- ◆ 文字の形や大きさを識別することが難しく、正確に書けない。「へん」や「つくり」の位置関係を認識できず書き間違える。
- ◆ 漢字の線の数、交わる部分、止めやはね等を認識することが難しく、漢字を書き間違える。



### 指導のヒント

- ◎ 言葉を手掛かりとして、「親」は「たつ(立)」「き(木)」「みる(見)」のように書く練習をします。



漢字の構成を言葉で示し、書く練習の手掛かりにします。

- ◎ 視覚的な手掛かりとして、漢字を「へん」や「つくり」等の部品に分けて提示し、書く練習をします。



- ◎ 正しい漢字と比較しながら、漢字の間違い探しを行い、細かい部分を意識できるようにします。



## 長い文章の読解に困難さがある

- 文は読めるが、長い文章全体の構成や要点を理解することが難しい。

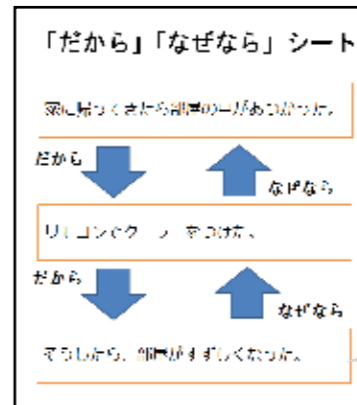
### 障害の状態

- ◆ 長い文の構成や、文の前後関係、因果関係を読み取ることが難しい。
- ◆ 文章中に意味の分からない語彙があると、読み飛ばしてしまうため、特に長い文章では、全体の理解が難しい。
- ◆ 文法の理解や、文全体の理解が難しい。



### 指導のヒント

- ◎ 接続詞「だから」と「なぜなら」を使った文書を活用し因果関係を把握する力を高めます。



イラストで因果関係を学習します。

「だから」「なぜなら」シートに記入させ因果関係を学習します。

- ◎ 文書に出てくる分からない言葉に印を付け言葉を調べる習慣をつけます。

- ◎ 例えば、文法上の「受け身」について押したり押されたりすることを体験させるとともに、イラストや文字で理解させる等、様々な方法を用いて習得させます。

- ◎ 段落ごとの内容をイラストにしたり、段落ごとの関係を図示したりして、文章の構成を理解させます。



読み間違いが減って、読むスピードが速くなりました。読むことが楽しくなりました。



読み書きできる漢字が増えてきました。漢字に少しずつ興味が湧いてきました。



長い文章も理解できるようになってきました。テストの問題文も理解できるようになりました。